

第3章

学士課程の教育内容・方法等

【課題・方策】 政治経済学部の実習は、その実習の多くを夏休み期間中に行っている。そのために、どうしても学生と実習先との実際のやり取りの詳細については、実習終了後のレポートの提出を待たねばならない。今後、実習途中での脱落等のトラブルを解消するためにも、インターンシップに関わる大学の関係部署が実習先とより緊密に連絡が取れるようにすることで、本制度のよい成果が学生ならびに実習先双方に得られるように体制を整えることも必要である。

児童英語のインターンシップについては、今後、実習先の小学校における国際理解教育のあり方やその内容を事前に十分に調べると共に、大学からの移動時間をも考慮して、実習先を再検討する必要があると思われる。さらに、資格取得のためだけにインターンシップを履修する学生が増えてきた場合、実習先の担当者との信頼関係を損なわないように十分に指導して実習に参加させることが必須である。

5 ボランティア

1) 児童学科におけるボランティア活動

(C群: ボランティア活動を単位認定している学部・学科等における、そうしたシステムの実施の適切性)

【現状の説明】 ボランティア活動を単位認定している学科は児童学科である。児童学科では学生の自主的なボランティア活動に対し、「フィールドワーク」という科目を設定し、内規に従って単位認定を行っている。

保育士資格、幼稚園教諭免許を取得できる本学科では、子どもの生活の場を学生自身が体験することが不可欠となる。そのために、授業としての実習以外に保育施設や児童福祉施設における自主的なボランティア活動を行い、保育や児童福祉の意味、また実際に直面する問題点等を現場体験から学ぶことを奨励している。

また 2006 年度からは、聖学院アトランタ国際学校幼稚部 (Seigakuin Atlanta International Schools) における海外ボランティア活動を単位認定すべく「海外実習 (SAINTS)」という科目が新設された。これは、卒業要件単位及び幼稚園教諭一種免許取得に必要な科目の単位を全て取得済みの4年次生を対象とした2週間の実習で、参加学生は現地での保育活動を手伝いながら、色々な人間が共に生きる国際舞台で、言葉や文化の違いを越えた共感を実感し「子ども」そのものに出会うという貴重な体験をしている。この実習は、秋学期に1度に3人ずつ2回実施され、応募者が多いときには選抜をして成績の良い学生を送り出していることもあり、参加学生の就職にも極めて有利であった。

他の学科では、授業科目に「NPO・NGO論 (国際協力)」（政治経済学科・人間福祉学科）、「ボランティア論」（コミュニティ政策学科・人間福祉学科）、「国際ボランティ

ア入門A」「同 B」（欧米文化学科）などの授業を開講して、ボランティアの理論や実情について学ばせているが、実際の活動を単位認定するには至っていない。

【点検・評価】 児童学科の活動では、学生が子どもの発達や保育・児童福祉施設に対して理解を深めることができ、体験を積み重ねることによって、実習や就職の際に戸惑うことなく子どもや保育・児童福祉施設に適応することが可能となった。ボランティアを単位認定することによって学生が目的意識をもって取り組み、教員も現場に適した活動を指導することが可能になった。が、これまでの「フィールドワーク」に含まれていた「海外実習（SAINTS）」が2006年度より別科目として設置された他、保育士関係の実習「保育実習A」「同B」が設けられ実習の機会が増えたため、「フィールドワーク」としてまとめたボランティア活動を一定期間持続することが困難になり、結果として履修者が減少している。

【課題・方策】 児童学科の「フィールドワーク」については、当初の目的である現場体験は他の形で満たされている部分もあるので、今後はむしろ社会に出ていく前に、就職先となる現場に即した体験ができるように「保育インターンシップ（仮称）」のような科目を4年次に置くことを検討している。

他学科でもボランティア活動を単位化する試みがなされたが、途上国へ学生を派遣する際の安全の確保、実施時期など、様々な問題から実現が難しいのが現状である。キリスト教センターと連携してボランティア拠点を海外に設けるなど、組織的基盤整備ができると活動は一層容易になる。